

設計モジュール化技法による

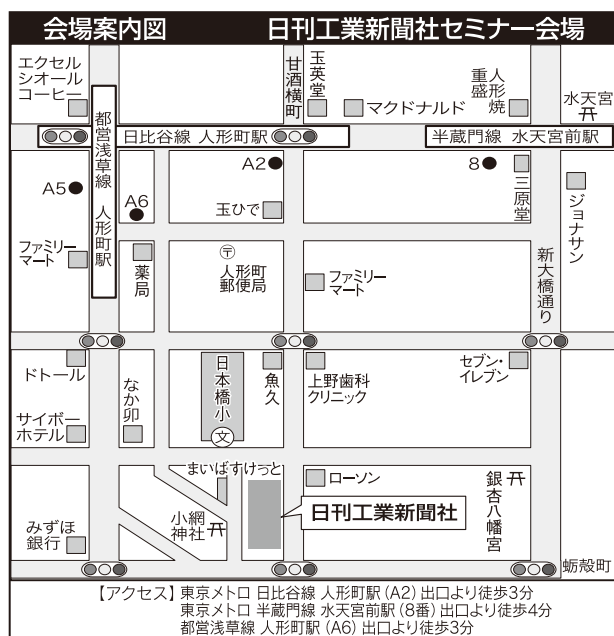
設計工数削減と若手設計者の早期育成、 その具体的進め方と成功事例

日時 2020年 1月 21日(火) 10:00~17:00
(9:30 受付開始、休憩 12:30~13:30)

主催  **日刊工業新聞社**

会場 日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム
東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)

受講料 **44,000円**（資料含む、消費税込）
 ＊同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円
 ＊後日、別の方が追加で申込をされる際は、備考欄に先に申し込まれた方のお名前と複数割適用希望と記載ください。
 （記載が無い場合は通常料金のご請求となります。予めご了承ください）



日刊工業新聞社 東京本社 セミナールーム

東京都中央区日本橋小網町14-1(住生日本橋小網町ビル)

【アクセス】

東京メトロ日比谷線『人形町駅』A2出口 徒歩3分、都営浅草線『人形町駅』A6出口 徒歩3分
東京メトロ半蔵門線『水天宮前駅』8番出口 徒歩4分
※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。
※講義の録音・録画は固くお断りいたします。

●申込方法

申込書を郵送又はFAXにて下記にお申し込みください。ホームページからもお申し込み
できます。(http://corp.nikkan.co.jp/seminars/) 受講料は銀行振込で受講票及び
請求書が到着次第、開催日1週間前までにお支払いください。

なお、キャンセルにつきましては開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。振込手数料は貴社でご負担願います。

口座名義	りそな銀行	東京営業部	当座	656007
(株)日刊工業新聞社	三井住友銀行	神田支店	当座	1023771
	みずほ銀行	九段支店	当座	21049
	三菱UFJ銀行	神保町支店	当座	9000445

●申込先 日刊工業新聞社 総合事業局 教育事業部 技術セミナー係

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)
TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215
e-mail : i-seminar@media.nikkan.co.jp

受講申込書

1/21 設計モジュール化

お申し込みは FAX 03-5644-7215

■受講料：44,000円（資料含む、消費税込）※同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円

※振込手数料は貴社にてご負担ください。

会社名	フリガナ			業種	
	氏名	フリガナ	部署・役職	TEL	
				FAX	
所在地	〒			E-mail	※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は ☐ チェックをしてください。
備考					

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。

個人情報取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。 【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansco.jp

No. 190476

開催主旨

「設計・開発部門だけは長時間残業は仕方ない」という風潮が変わりつつあります。

「働き方改革」の推進が叫ばれる中、従来、長時間残業の「聖域」であった設計・開発部門に対して、抜本的な改革が迫られてきています。しかし、技術的なノウハウを持った人材を必要とする設計部門では、単純に派遣社員や新規採用の要員を追加しても、人件費の負担が増すだけで即戦力としての活用が難しい事は言うまでもありません。その為、経験年数が少ない要員でも戦力化する様な業務のしくみが必要となってきます。さらに、日本では企業の発展期を支えてきたベテラン技術者の定年退職が進行し、業務現場で明文化していないノウハウが緩やかに消失しており、業務品質の低下、手戻りの増加等が増大している企業も散見されます。

このような状況の中、個別受注・都度設計を行う製造業では、設計のモジュール化技法を問題解決の一つの手段として、改革活動に取り組む企業が増えてきています。

顧客要求により受注後に新規図面の発生がある個別受注型組立業では、いかにカスタム設計の効率化を図れるかが、企業の生産能力・売上規模を左右すると言っても過言ではありません。この為、多くの企業では長年、設計の標準化・ユニット化を推進していますが、成功している企業が少ないのが実態です。

では、なぜ上手くいかないのでしょうか？ それは、カスタム設計の効率化を設計部門だけの課題として考え、取り組んでいるからです。本セミナーでは、設計を核にして全社に展開する業務改革技法である設計モジュール化技法について、基本的な考え方・具体的な取り組み方・推進方法、さらにITツールの紹介をいたします。実際にモジュール化技法のコンサルティングを実施している業務改善コンサルタントの豊富な経験を基に、事例を交えて分かりやすく講義いたします。

ぜひ、この機会に、カスタム設計業務の抜本的な改革を考えている方々の参加をお勧めいたします。

※本セミナーは、顧客の要求仕様に応じて、受注後に都度設計作業（特殊仕様対応を含む）を行う業態のカスタム設計部門の方を対象としています。

製番（作番、工番）方式の製造業を対象にしています。（量産型製造業は対象としておりません）

講師

株式会社経営システム研究所 エグゼクティブ・コンサルタント

野村 武史 氏

【略歴】1960年生まれ。（兵庫県）甲南大学 理学部 経営理学科 卒業。大手輸送機メーカーを経て、1989年10月より現職に従事、現在に至る。製造業を中心に、業務戦略の策定／展開指導、設計業務・生産管理・製造現場の実務改善指導、情報戦略の策定／展開指導のコンサルティング活動を展開。
精密機械製造業:事業戦略策定 工作機械製造業:設計業務改善 印刷機器製造業:設計システム基本構想策定～業務定着化
医療機器製造業:生産管理改善 食品製造業:製造現場・生産管理改善 輸送機器製造業:全社システム基本構想策定

【著書】設計モジュール化技法 ～図面を描かずに設計する！～ 日刊工業新聞社刊 経営システム研究所編

プログラム

1. 個別受注・受注後設計型 製造業の現状

- 1-1. 個別受注・受注後設計型
製造業で発生している問題
- 1-2. マス・カスタマイゼーション
- 1-3. SCMとECM
- 1-4. エンジニアリングのV字カーブ
- 1-5. 川は上流から澄む

2. 設計モジュール化技法とは

- 2-1. モジュール化のコンセプト
- 2-2. モジュール化による多様化対応
- 2-3. 設計思想と標準化
- 2-4. 「設計のモジュール化」と「生産のモジュール化」

3. 設計モジュール化技法の進め方

- 3-1. 図面構成の標準化
- 3-2. 機能バリエーションの整備
(設計対応範囲の可視化)
- 3-3. マトリクス部品表の整備 (部品の共通化)
- 3-4. 顧客要求事項の標準化
(製品仕様バリエーションの標準化)
- 3-5. 設計ノウハウの見える化
(影響範囲の可視化・図面の自動抽出)

4. 設計モジュール化技法の導入後の新しい業務の姿

- 4-1. 設計部門を中心とした新しい業務イメージ
- 4-2. カスタム設計部門の仕事
- 4-3. 設計の機能組織体制

5. 設計モジュール化技法の推進活動体制

- 5-1. メンバー選出のポイント
- 5-2. 全体推進計画

6. 新しい業務を支援するITシステムの構築

～モジュール化に対応したシステムの基本形～

- 6-1. システム・業務プロセス全体図
- 6-2. 各種画面イメージ

7. 設計モジュール化技法の事例

- 7-1. 標準的な効果
- 7-2. 各社事例